

ベトナム・チョーライ病院と筑波大学附属病院との第 10 回テレカンファレンス

国際医療センター

平成 28 年 7 月 11 日（月）に九州大学医学部の支援で筑波大学附属病院とベトナム・ホーチミン市のチョーライ病院との間で第 10 回テレカンファレンスを実施しました。テーマは“肝臓がんに対する門脈塞栓術（PVE）”でチョーライ病院からは肝腫瘍科医長の Dr. Nguyen Dinh Song Huy から、筑波大学附属病院からは放射線科の森健作先生からの発表がありました。

筑波大学附属病院からは消化器外科を主に約 15 名が参加、チョーライ病院からは肝腫瘍科を中心にやはり約 15 名の参加がありました。

ベトナム側からの発表ではベトナムにおいて肝臓がんは非常に多い悪性腫瘍であるが、かなり進行してからの受診が多く、症例数は大変多いが切除率は高くない旨の説明がありました。健康診断などが発達しておらず具合が悪い場合にすぐに医療施設を受診するような受療行動も習慣化されておらず、ベトナムにおける現状を察することができました。筑波大学附属病院からも肝臓がんに対する門脈塞栓術に関する発表があり、発表後は門脈塞栓術後の切除までの期間や門脈塞栓術と肝動脈化学塞栓術（TACE）の組み合わせなどに関する協議が活発に行われました。



筑波大学附属病院から発表する森健作准教授



チョーライ病院から



チョーライ病院で発表のモニターに見入るスタッフ



筑波大学附属病院から